

## 玉名飛行場由来の軍用機車輪について（中間報告）

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表  
肥後考古学会 幹事 高谷 和生

### 資料の価値

- ①本資料は玉名（大浜）飛行場由来の車輪一对である。
- ②タイヤがブリジストン製、当地で訓練に利用された「四式基本練習機（通称ユングマン）」主輪と想定される。
- ③県内軍用機車輪遺存は5件、航空遺産は19例目

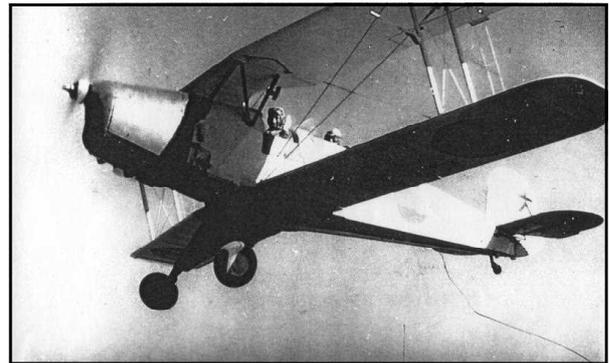
## 1 陸軍玉名（大浜）飛行場

- 玉名市大浜町所在。高瀬・大浜飛行場の別称を持つ。大刀洗陸軍飛行学校玉名教育隊として昭和16年4月開隊。少飛14期140名、特幹1期140名卒業。大刀洗飛行学校閉校に伴う改編で、錬成飛行第八戦隊・空五四二に改称。昭和20年5月10・13日の空襲で、西側管理区画内建物は全壊。その後は米子飛行場へ移駐し決と号要員として訓練実施。昭和20年7月、第三十戦闘集団の配当飛行場となり、練習機特攻機の中継基地として利用され、敗戦時には第九十・九十一振武隊24機が配置済み。
- 現地には正門、木製大型格納庫2と小型格納庫6の基礎部、兵舎2の基礎部、本部棟基礎部とコンクリート製拝殿、風呂場2、井戸1等が遺存。

## 2 玉名飛行場に配備された練習機

### (1) 四式基本練習機

- 昭和13年にドイツから実験機として輸入したビュッカー「ユングマン」練習機が初歩練習機としての飛行特性に優れており、量産性も良好と判断されたため、海軍では14試陸上基本練習機（K9W）として、昭和15年6月に渡辺鉄工所へ試作指示を行い、翌年8月に試作1号機が完成、制式採用よりも前の昭和17年から生産が開始された。また、陸軍でもキ86として昭和17年3月に日本国際航空に対して試作指示を行い、翌18年7月に試作1号機が完成、順次生産型の製作が行われた。陸軍の生産数は1,030機と多く、海軍では277機であった。
- 発動機は陸海軍とも国産のハ11-11型（陸軍名称ハ47、海軍名称GK4A）に変更してあったが、元のユングマンに搭載されていたヒルトHM504Aに比べ出力が安定せず信頼性も低かった。しかし取り扱いが簡単で製造も容易、維持費も安い機体ということで歓迎はされている。なお、陸軍名称である「基本練習機」は当機で初めて使用されたもので、初歩練習機と中間練習機を統合し、飛行基本を習得するための機体という位置づけ。



玉名飛行場の上空を飛ぶ四式基本練習機

### (2) 九五式中間練習機

- 立川飛行機（前進の石川島飛行機）が設計を行った機体。当初は同じ設計の機体に発動機を積み換えることで初等練習機（150馬力級発動機搭載）と中間練習機（350馬力級発動機搭載）の両方に使用することを考えており、操縦者の練度にあわせて性能に段階を付けられることから階梯機と名付けられた。
- 完成した中間練習機型の方は「操縦が簡単すぎるのが欠点」（誰でも楽に操縦できる機体では操縦技量向上の訓練にならない）といわれるほど扱いやすい機体で、戦前戦中を通して陸軍を代表する練習機として活躍した。戦争末期には一部の機体が特攻に使用され、陸軍以外に民間操縦士育成（航空局乗員養成所）や海外輸出（中華民国、タイ、インドネシア）などでも使用された。



加古川飛行場の九五式中間練習機三型

### 3 玉名飛行場で確認された主輪

※玉名市高瀬の旧猿渡商店（現高瀬蔵）から玉名歴史博物館への寄贈資料

- (1) 主輪 2個は同規格  
規格 径68.5cm 幅22.0cm 荷重 ( ) Kg  
リム(ホイール)規格 径30cm 幅18.5cm スポーク 6本  
材質は、アルミニウム合金铸件 ※正式には製品分析が必要  
軸規格 径75mm

(2) a/a b資料

- ゴムタイヤ部A面・記載の銘  
「ブリジストンタイヤ株式会社」  
「昭和17年8月製」「□(ブリジストンマーク)」  
「685×220 低圧制動車輪」  
「常用内圧最大1.75KG/CM<sup>2</sup>」  
「最小0.75KG/CM<sup>2</sup>」  
ゴムタイヤB面 記載なし  
チューブ記載銘  
「内外護謨合資会社」「昭和□年9(9はスタンプ印)月製」  
「660×220 低圧制動車輪 No.4  
42(442はスタンプ印)」  
ホイール内面への記銘 ポンチ打ち  
「17 AZ 12 19」「○(丸印)」「○(丸にA印)」「◇(菱形に○と下架線マーク)」



右側がa/a b資料、左側がb/a b資料  
共にA面でゴムタイヤに記載があり

(3) 旧猿渡商店（現高瀬蔵）資料

- 本資料は2個組一対で、玉名飛行場より戦後の高瀬の町に放出され、戦後長く猿渡商店で「リヤカータイヤ」として利用された資料である。現在は玉名歴史博物館が所蔵。  
本低圧タイヤは、「バルーン・タイヤ」とも呼ばれ、不整地からの離発着に使用された規格タイヤである。各種練習機を始め、軍偵機・連絡機・敗戦間際の本製の特攻専用機など多数の機体に装着された。  
玉名飛行場には「四式基本練習機(ユングマン)」と「九五式中間練習機」の両機が配置されており、九五式中間練習機の主輪規格は「685×220」となり本資料が該当する。  
製造元は刻印にある「ブリジストンタイヤ株式会社(現・株式会社ブリヂストン)」、チューブは「内外護謨合資会社(現・内外ゴム株式会社)」、ホイールは「大刀洗航空機製作所」である。

### 4 玉名飛行場由来の車輪資料

※荒尾市在住の山代成彦様所属資料。荒尾二造平和資料館展示資料

(1) 由来

戦後精米業を営む「村島商店(荒尾市荒尾903番地)」で利用されていた車輪である。

(2) A/AB資料 ※車輪2個は同規格

- 規格 径51.0cm 幅17.0cm 荷重 ( ) Kg  
リム(ホイール)規格 径26.0cm 幅16.5cm 重量軽減の肉抜き8箇所  
ボルト一体成形3個 材質は、アルミニウム合金铸件 ※正式には製品分析が必要  
軸規格 径75mm 材質 鉄製  
ゴムタイヤ部外面・記載の銘  
「◇(ブリジストンマーク ※要石マーク)」  
ゴムタイヤ内面 記載なし  
チューブ記載銘 不明 ※今後切断調査  
ホイール外周部・内面への記銘 風雪劣化により不明

### 5 まとめ

- 本資料は2個組一対で、大浜(玉名)飛行場より戦後民間に放出され、長く村島米店で、米運搬用に利用された資料である。入手当時は、同型車輪は4本あった。現在は荒尾市山代成彦氏(荒尾二造市民の会)が所蔵され、荒尾二造平和資料館にて展示されている。  
本資料は運搬車としてその後軸を取り付け利用されたものであるが、主輪そのものは玉名飛行場で訓練に利用された「四式基本練習機(ユングマン)」と想定される。継続して主輪の図面・資料調査を進めたい。  
鉄製軸の取り付けが戦時(飛行場内の利用での運搬車用途)であるのか、その後の運搬荷車使用時であるのかは、不明である。  
製造元は刻印にある「ブリジストンタイヤ株式会社(現・株式会社ブリヂストン)」、チューブ・ホイールともに製造基は不明である。  
なお、所蔵者未公開資料であるが、さらに小径となるタイヤ径42×15cm、中央ゴム・常用圧印、リム径20cmもネット上で検索できる。



- 軸が付いた車輪2本
- 要石をアレンジした「ブリヂストンタイヤ株式会社製」(現・株式会社ブリヂストン)の「ブリヂストンマーク」銘



- A車輪外面の外観
  - A車輪内面の外観
- ※軸装着状況、軸キャップ外しの状況  
※軸から取り外し状況



- 軸棒の状況
- A車輪装着のベアリング・キャップ・ナット類・軸キャップ

問い合わせ先・連絡先  
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生  
自宅/〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5  
個人携帯 090-1513-5528  
Eメール [takayanagi912@yahoo.co.jp](mailto:takayanagi912@yahoo.co.jp)  
HP URL <https://kumamoto-senseki.net/>  
<https://kumamoto-senseki.net/peace-kumamoto/>



- 輸入機「ユングマイスター」昭和13年 羽田飛行場
- 四式基本練習機「尾輪」 大刀洗平和資料館
- ユングマン模型機 大刀洗平和資料館





□四式基本練習機「ユングマン車輪」の  
展示台及びリム、ゴムタイヤ部の状況  
荒尾市山代成彦氏宅



[資料 3]



- 四式基本練習機「ユングマン」とされる車輪のリム、ゴムタイヤ
- タイヤ径42×15cm。中央ゴム・常用圧印
- リム径20cm

所蔵者未公開